

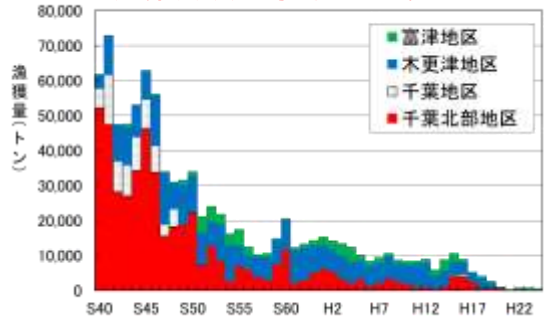
2. 地域の現状と課題



- (1) 千葉県地区別アサリ漁獲量の推移
- (2) アサリの減耗要因
- (3) 活動の経緯

千葉県地区別アサリ漁獲量の推移

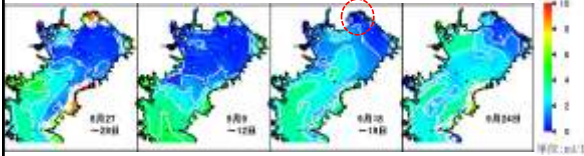
あさりの激減の要因としては、青潮の発生、冬季波浪、食害等が挙げられる。



アサリの主な減耗要因（青潮）

青潮による減耗

夏季～秋季に北風が吹くと北部海域に貧酸素水塊が湧き上がり「青潮」が発生

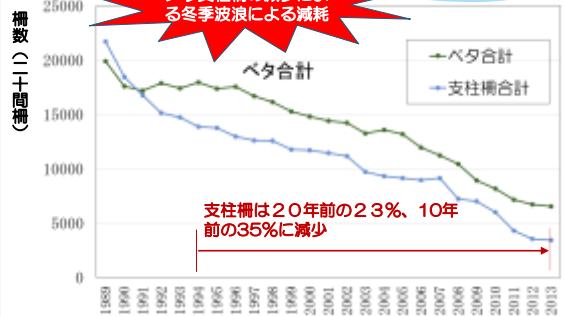


2013年夏季の貧酸素の状況

※出典
東京湾貧酸素水塊推定システム
「千葉県農林水産部水産総合研究センター東京湾漁業研究所」
<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab/suisan/suisan/hinsanso/>

アサリの主な減耗要因（冬季波浪）

ノリ支柱欄の減少による冬季波浪による減耗



千葉県のノリ養殖柵数の推移

アサリの主な減耗要因（食害減耗）

スズガモ、ツメタガイ等の食害による減耗



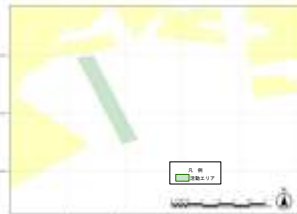
スズガモ

ツメタガイ

活動の経緯

環境・生態系保全対策の取組み
(平成22～24年)

- 耕うん
- 機能低下を招く生物の除去（ツメタガイ）
- 稚貝の密度管理



活動の経緯



2012/9/26 の青潮

アサリ、ホンビノスガイの大量斃死

平成23～24年度に覆砂を行った高い場所のみ、貝類が生き残った（※環境・生態系保全対策とは別事業）。



覆砂（客土）の重要性を認識し、水産多面的機能発揮対策事業で漁業者自らが覆砂を実施することとした。

3. 活動組織の概要



- (1) 活動組織の構成
- (2) 活動位置

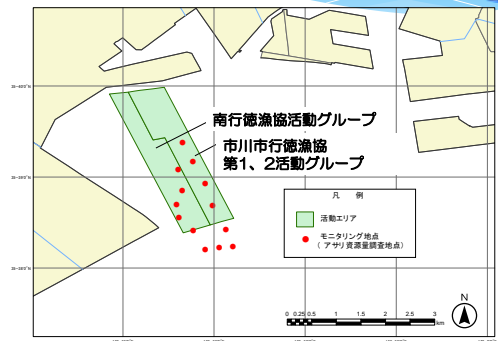
活動組織の構成



- 市川市では南行徳漁協、市川市行徳漁協の組合員と地域住民を中心として、3つの活動組織を設立

グループ名	構成員数（人）	活動面積（ha）
南行徳漁業協同組合活動グループ	38人	116ha
市川市行徳漁業協同組合第1活動グループ	25人	61ha
市川市行徳漁業協同組合第2活動グループ	28人	61ha

活動位置



4. 活動の目標と計画



- (1) 活動目標とメニュー
- (2) 平成26年度計画

活動目標とメニュー



■ 目標

干潟（アサリ等の二枚貝漁場）の保全・再生

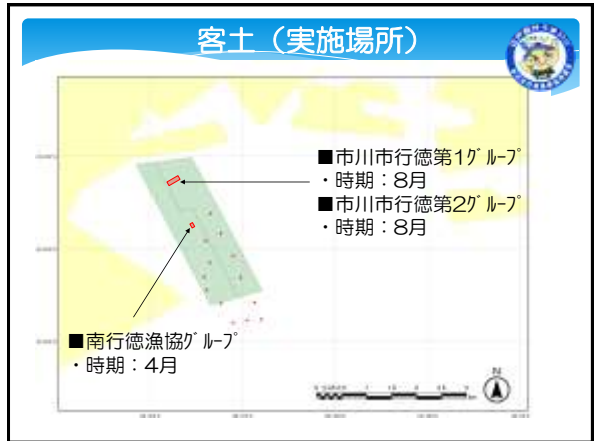
■ 活動メニュー（3ヶ年）

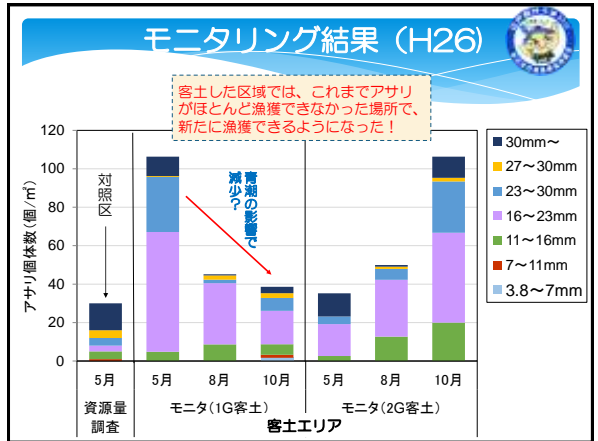
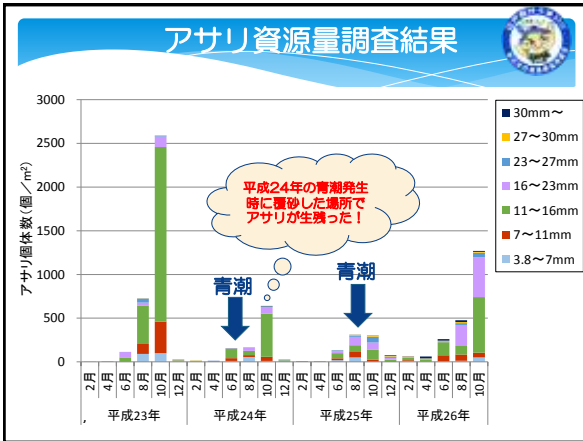
- ① 客土
- ② 機能を招く生物の除去（ツメタガイ）
- ③ 保護区の設定
- ④ 稚貝の沈着促進
- ⑤ 稚貝の密度管理
- ⑥ 機能発揮のための生物移植

平成26年度計画

干潟・浅場の保全活動項目	平成26年												平成27年		実施組織	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月					
客土	←	→														南行徳漁協活動グループ
客土					←	→										市川市行徳協第1・第2活動グループ
機能低下を招く生物の除去(覆足類)														←	→	全組織
保護区域の設定														←	→	全組織
種員の沈着促進														←	→	南行徳漁協活動グループ
種員の密度管理														←	→	全組織
機能発揮のための生物移植														←	→	全組織
モニタリング	←	→														全組織

※12月以降は予定





6. 客土の効果と今後の課題

客土の効果

これまで使えなかった場所を漁場として使えるようになった。

今後の課題

1. 客土による稚貝発生効果が確認されたが、効果は場所によって異なるので、**滞りない稚貝の発生しやすい場所を選択することが重要。**
2. 客土した砂は、波や流れなどの海水の動きによって次第に減少するので、(当然のことながら) **静穏な場所**で客土を行うことも重要。
3. 客土の効果で発生した稚貝は、**青潮や波、食害の影響によって減少するので、予めその対策を検討しておくことが必要。**

